

いわき丸トロール調査で採集された ユメカサゴの全長組成及び胃内容物組成

福島県水産海洋研究センター 海洋漁業部

部門名 水産業－資源管理－その他魚種(海)

担当者 安倍裕喜・坂本啓・山田学

I 新技術の解説

1 要旨

ユメカサゴは主に水深 100mから 200m の岩礁帯や砂泥底に生息するとされ、福島県においては「ノドグロ」の名称で親しまれている。一方で、本県における同種の生態については佐久間(2015)の報告があるのみで不明な点が多い。

このため、2015 年から 2018 年のいわき丸トロール調査で採捕されたユメカサゴの全長組成と、2011 年から 2018 年のこたか丸及びいわき丸のトロール調査で採捕されたユメカサゴの摂餌率、胃内容物について整理した。

その結果、ユメカサゴの 2017、2018 年の個体数密度は、2015、2016 年と比較すると全長 12cm～15cm の群で高かった。また、胃内容物については、一部を除き、殆どの水深帯で甲殻類が卓越する傾向がみられた。

- (1) いわき丸トロール調査で得られたユメカサゴの全長階級別個体数密度から、2017、2018 年は 2015、2016 年と比較すると全長 12～15cm の密度が高く、佐久間(2015)によれば、この群は 2～3 才魚(2015、2016 年級)が主体であると考えられた(図 1)。
- (2) 摂餌率は、月別では 10～12 月、水深別では 300m で低い傾向がみられ、地区別では差はなかった(表 1～3)。300m はユメカサゴの主分布域からはずれており、餌料環境が悪かったことにより摂餌率が低かった可能性がある。
- (3) 胃内容物については、水深が深くなるにつれて頭足類の割合が増加することがわかった。一方で、多毛類は水深が深くなるにつれてその割合が減少していた。
- (4) また、本県海域の大陸棚(水深 100～175m)においては、季節を通して甲殻類の割合が高い傾向にあるが、大陸棚斜面域(水深 200～300m)では魚類の割合が高い期間があり、生息水深帯で胃内容物の組成に違いがあることが示唆された。

2 期待される効果

本県海域に生息するユメカサゴの生態解明のための基礎的資料となる。

3 適用範囲

研究者

4 普及上の留意点

特になし。

II 具体的データ等

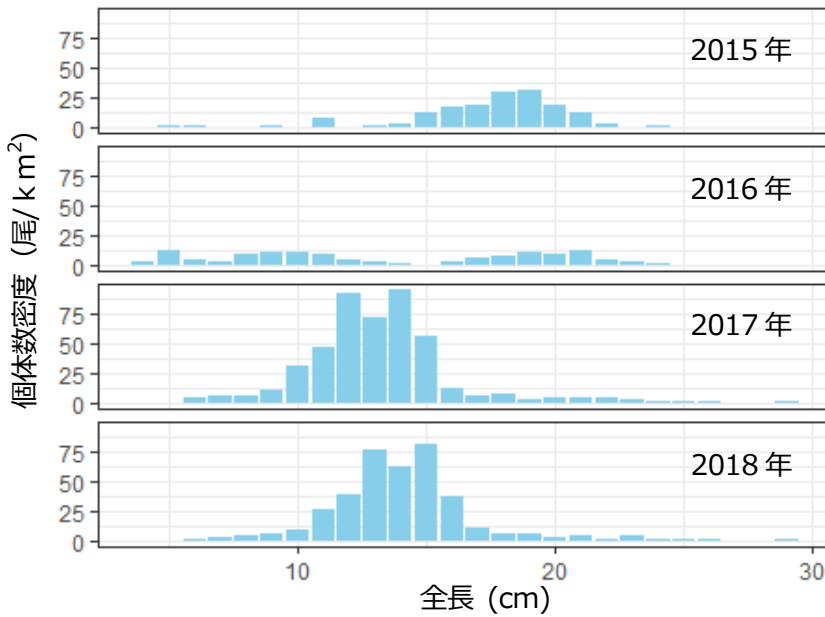


図1 いわき丸トロールにおけるユメカサゴの全長階級別個体数密度

表1 ユメカサゴの月別摂餌率

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
個体数	42	76	45	59	126	93	80	98	95	140	62	29
摂餌個体数	22	42	32	38	88	54	49	63	63	59	31	12
摂餌率	52%	55%	71%	64%	70%	58%	61%	64%	66%	42%	50%	41%

表2 ユメカサゴの水深別摂餌率

水深	100	150	175	200	300
個体数	60	333	423	106	23
摂餌個体数	32	184	257	69	11
摂餌率	53%	55%	61%	65%	48%

表3 ユメカサゴの地区別摂餌率

地区名	塩屋埼	鞆ノ尾埼
個体数	693	252
摂餌個体数	413	140
摂餌率	60%	56%

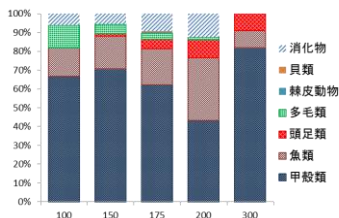


図2 水深別のユメカサゴの胃内容物

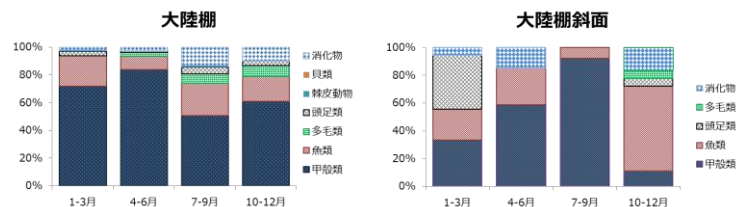


図3 大陸棚および斜面域での四半期別の胃内容物

III その他

1 執筆者

安倍 裕喜

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 28~32 年度
- (2) 研究課題名 底魚資源の管理手法に関する研究

3 主な参考文献・資料

- (1) 益子剛 (2015) 茨城県沖で漁獲されるユメカサゴについて
- (2) 早乙女忠弘・伊藤貴之・山田学・水野拓治 (2015) 緊急時モニタリング試供魚における主餌料出現割合に基づく食性区分
- (3) 佐久間徹 (2015) ユメカサゴの年齢、成長、成熟と食性